

特集 なぜ 今「ごみ減量20%」か？



碧南市の海上に浮かぶ衣浦ポートアイランド。



現在、ごみを燃やして出た灰の一部は、高温で溶かされて溶融スラグというものに加工されています。来年度、埋め立ての容量を超えて出た灰は、すべてこの処理に回されます。それなら、何も問題はないように思えますが…。いえいえ、そこには、大きな落とし穴があるのです。

■灰は溶かしてスラグに

現在、安城市で発生する灰は、その制限容量をオーバーしています。では、その超えた分はどうやって処分するのでしょうか？

■来年度は受け入れを制限
衣浦ポートアイランドの残り容量は、昨年10月1日現在で6

ランドは、来年度いっぱい埋め立て許可の期間が終了する予定なのです。

埋立場は満腹

問題その2

■埋立場のない安城市

一般的に、埋め立てが可能な場所は山か海。安城市には、そのどちらもないため、常に埋め立ての問題を抱えているといえます。

現在、ごみを焼却して残った灰は、碧南市にある衣浦ポートアイランドへ、燃やせないごみを破碎して残った不燃物は、榎前町の一般廃棄物最終処分場へ、それぞれ埋め立てています。しかし、そのどちらにも限界があります。特に、衣浦ポートアイ

万5000㎡。今の1か月当たりの搬入量は4300㎡、残り期間を18か月で計算すると「4300×18＝77400㎡」。このままでは、次の埋立場ができる前に、灰の行き先がなくなってしまう。このため、衣浦ポートアイランドは、同所を利用する各市に、受け入れ制限を実施する予定です。しかし、現在、安城市で発生する灰は、その制限容量をオーバーしています。では、その超えた分はどうやって処分するのでしょうか？

よみがえれ！埋立場処分場

現在、安城市で発生する不燃物を埋め立てている「榎前一般廃棄物最終処分場」。平成5年から埋め立てを開始した同場は、本来であれば、すでに満杯のはず。まだ埋め立てが可能な裏には、一体どんなカラクリがあるのでしょうか？

平成16年、満杯になった最終処分場を再生するため、いったん埋めたごみを掘り返す事業が始まりました。その費用は約18億円。もちろん、ただ、ごみを掘り返すだけの作業では終わりません。この後の処理にカラクリがあるのです。

以前埋めていた「燃やせないごみ」は、破碎・分別などの処理がされていません。そのため、本来は燃やせるもの、リサイクルできるものも含まれてしまっています。そこで、掘り返したごみを破碎・分別することで、容量を3分の1以下にすることが可能となるのです。

この再生事業で、処分場の寿命は20年ほど延びました。もちろん、ごみの搬入量によって、寿命は変わってきます。ごみを減らして、長く大切に利用したいですね。



炉に付着したクリンカ（灰とガラスや金属が混ざって固まったもの）。ごみの量や質が変わったことが原因。クリンカがこびりつくと、炉の処理能力が低下してしまう。



平成9年に完成した環境クリーンセンター。

問題その1

焼却炉は限界!?

■焼却炉の処理能力

収集された「燃やせるごみ」は、和泉町の環境クリーンセンターで焼却しています。同施設が一日に処理できるごみは240トン。仮に年間の搬入量が6万トンだとすれば、一日当たりの量は160トン強となり、まだまだ余裕があるように思えます。

■ごみがあふれた！

ところが、平成19年3月に、焼却しきれないごみが、大量に出てしまうという事件が起こりました。なぜこんなことになったのでしょうか？

実は、環境クリーンセンターの焼却炉は2基あるのです。240トンというのは120トンの処理能力を持つ炉2基の合計、つまり「120×2＝240」というわけです。では、このうち1基が動かないと…。事件は、焼却炉のうちの1基が故障したことが原因だったのです。

焼却するごみの量に余裕があ

■最も高価な公共施設

安城市の中で最も高価な公共施設は何でしょうか？正解は環境クリーンセンター。約120億円の建設費用がかかっています。歳を重ねるごとに能力が低下する焼却炉。無理な使い方をすればするほど、その劣化は激しくなります。いつか、搬入されるごみが処理しきれなくなれば、新しい施設を造らなければなりません。ただし、それには、再び多額の費用が必要となります。でも、逆に考えれば、ごみの搬入量を減らすことで、今の焼却炉を長期間利用することも可能なのです。



破碎時に発火したごみ

■事故を防ぐために

燃やせないごみを出すときは、次のことに注意しましょう。

- スプレー缶は穴を開ける
- ライターは危険物へ
- 電化製品などの電池をはずす

危険！「燃える」ごみ

燃やせないごみを集めて破碎・分別処理を行う「安城市リサイクルプラザ」。ここには、テーブルやタンスなどの家具をはじめ、自転車・CD・ビデオデッキ・犬小屋（しなど、たくさん種類の「燃やせないごみ」が集まっています。しかし、その中には、やっかいなものも混じっているのです。

昨年、同所では、9件もの火災事故が発生しました。その原因は、中身の残ったスプレー缶やライター、乾電池。ごみの中にこれらが混じっていると、破碎時に発火の恐れがあるのです。